

上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
1 暮らしを支える 上下水道	(1) 水の確保 (P45)	① 水源域の 適切な保全	森林整備(整備面積24.4ha/3年)を実施したほか、水資源保全地域における土地利用状況を確認するなど、水源域の保全に向けた取り組みを進めました。	B	外資による森林の買収が横行していますが、当市の水源保安林の保全に遺漏はありませんか。	本市の水道水源は、「北海道水資源の保全に関する条例」に基づく水資源保全地域の指定を受け、土地売買等を行う場合には、事前に利用目的等の届出を行うことになっておりますので、土地取引の動向が分かる状況になっております。 また、本市におきましても、年に1回、指定地域の土地所有者を調査し、土地取引等の有無について確認しております。今後も、北海道と連携し水源域の保全に努めてまいります。
	(4) 水道施設 機能の保全 (P47)	① 老朽施設の 計画的な更新 と施設規模の 適正化	老朽配水管を更新(φ100～350mm L=8,300m/3年)したほか、将来の水需要を見据え浄水能力を見直すなど、老朽施設の更新と施設規模の適正化を進めました。	B	経年化対策実施(上下水道施設)におきまして、資機材の仕様の見直し、工事方法や調達方法の工夫等、効率化施策の検討・導入事例につきましてご教示願います。 併せまして、人件費を含めました支出における効率化施策につきましてもご教示願います。	水道管路施設につきましては、市内の給水実態に合った適正な口径の選定や、道路改良工事に併せ老朽配水管の更新工事を実施するなど、更新費用の縮減に努めております。 下水道管渠施設につきましては、管渠更生工法の採用により、工期短縮などの効率化を図っております。 また、事業の執行体制につきましては、これまで、処理場の運転管理や浄水場の夜間休日の運転管理を民間委託したほか、上下水道関連のワンストップサービスを提供する「函館市水道お客様センター」を民間委託により開設するなど、事業の効率化や市民サービスの向上に取り組む中で、組織体制の整備を進めてきたところですが、今後におきましても、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するため、簡素で効率的な組織体制の構築に努めてまいります。
2 災害に強い 上下水道	(1) 地震対策の 推進 (P54)	① 水道施設の 耐震化	老朽配水管の更新に併せて耐震化を実施しました。(耐震化延長 L=8,300m/3年)	B	ビジョンに主な指標として、浄水場耐震化率、配水池耐震化率、基幹管路耐震適合率、非耐震管更新率、雨水整備率のH27年度実値と10年後の見込みが示されていますが、現段階の進捗については、ややわかりづらいように感じました。	上下水道事業経営ビジョンに掲載している主な指標は、主要施策の進捗状況を定量的に示す数値であることから、年度毎に検証し、その結果を踏まえて取り組み状況の評価を行い、経営懇話会で報告しているところですが、現段階の進捗状況を分かりやすく示すため、各指標の進捗状況も併せて報告してまいりたいと考えております。(P12参照) また、上下水道施設の耐震化につきましては、今後も施設の更新に併せて進めてまいりたいと考えております。
		② 下水道施設の 耐震化	老朽管渠の更新に併せて耐震化を実施しました。(耐震化延長 L=3,629m/3年)	B	災害に対するものについて一番心配に思う。特に耐震化について全てを改善していくことは大変なことと思うが、そこはできる限り早めに対応をしていってほしいと思う。	
	(2) 浸水対策の 推進 (P56)	① 雨水管の整備	日吉町4丁目や昭和町などで雨水管を整備しました。(φ250～1200mm L=1,874m/3年)	B	今年、2度大雨により、亀田中学校前の産業道路が冠水被害により通行に支障が出ました。雨水対策を検討していただきたい。	近年、全国各地で局地的な大雨による浸水被害が多発しておりますが、本市におきましても、令和2年9月、短時間に強い雨が降ったことにより道路冠水などの被害が発生しました。 企業局では、雨水管の整備にあたり浸水頻度の高い地域や道路整備と同時施工が可能な箇所など、家屋等の被害状況や優先順位を勘案しながら進めておりますので、ご理解いただきたいと思います。

上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
2 災害に強い 上下水道	(3) 災害対応力の 向上 (P57)	① 災害対策 マニュアルと 訓練の 充実化	上下水道事業のBCPに基づく訓練を実施するとともに、BCPの内容を見直し充実化を図りました。	B	マニュアルや訓練が行われていることは、とても重要であり素晴らしいと感じた。 水道は住民の命の綱です。BCPの充実と訓練を怠りなくお願いしたいところです。特に人員面については、経済合理性を犠牲にしても対応力を維持してください。	上下水道BCPにつきまして、今後も訓練結果に基づき内容の適宜見直しや充実を図っていくほか、民間事業者との合同訓練の実施や他都市との合同訓練への参加など公民連携、広域連携を推進し、災害時の対応能力向上に努めてまいります。 また、組織体制につきましては、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するため、簡素で効率的な組織体制の構築に努めてまいります。
		④ 災害時資器材の確保	災害時非常食や災害時資器材を充実させるなど、災害時に必要な資器材の確保に向けた取り組みを進めました。	B	国交省・内閣府より「マンホールトイレ整備を普及促進へ」と市町村に初通知が出ました。函館市でも是非、検討いただきたい。	本市では、マンホールトイレの導入につきまして、経費面などにおいて早急に整備することは難しいものと考えており、水を使用しない簡易トイレを市内の小・中・高等学校に配備しているほか、令和2年度には自動ラップ式トイレを購入し、指定緊急避難場所と指定避難所を兼ねている施設へ配備したところです。 また、避難が長期化してトイレが不足する場合には、現在、民間事業者と結んでいる協定により、供給される仮設トイレを活用し対応することとしております。
3 信頼される 事業運営	(1) 健全な 事業経営の 推進 (P58)	① 適正な 料金体系の 検討	将来の水需要の減少を見据え、料金体系に関する調査を実施したほか、賦課データを基にした実態把握調査を実施するなど、適正な料金体制の検討を進めました。	B	函館の上下水道料金が安定的なことについて、企業局の努力に心から敬意を払いたい。	企業局におきましては、給水人口の減少などによる料金収入の減少に対応するため、これまで事務事業・組織機構の見直しなどにより業務の効率化を図るとともに、人員削減による人件費の縮減を図ったほか、民間活力の積極的な活用を図るなどして支出を抑えてきたところであり、さらにはお客様の皆様のご協力の結果、このような安定した料金を維持できているものと考えております。 しかしながら、本市の水道事業、公共下水道事業は、拡張・普及の時代から維持管理の時代を迎え、老朽化した施設の更新に多額の費用がかかることが予想されることから、今後も安定的なサービスを提供していくためにも、上下水道事業経営ビジョンに基づき、引き続き効率的な事業経営に努めていかなければならないと考えております。
		③ コスト削減の 取り組みの推進	赤川高区浄水場プラント設備更新整備事業に係る民間活力の導入に向けた検討を進め、DBO方式で事業契約を締結、着手しました。	B	民間を活用したDBO方式での工事着手など、効率的な事業運営が行われていることは高く評価できるものと思いました。 「公民連携でめざす持続可能な水道事業運営」-技術情報誌(日立評論)-において、函館市における浄水場プラント設備更新および運転・保全管理業務の一括受託について詳細に述べられており、本事業が「先進的なモデルケースとなる可能性は高い」という指摘があった。 経営懇話会においても同様の報告があったところだが、重要な施策であるため、この件について様々なメディアを通じてもっと積極的に市民に対して広報すべきではないか、という印象をもった。従来、やや東部地区を含んだ広域的な取り組みである点の告知が不十分な印象もあるため、この点についても取り組みを強化すべきです。	赤川高区浄水場プラント設備更新整備等事業は、将来にわたり水の安全・安定供給を確保しつつ、効率的な施設運用を図ることを目的にDBO方式によってスタートした事業であり、今後も、公民連携のもと効率的な事業運営に努めてまいります。また、事業に関する内容や運営状況などにつきましては、市のウェブサイトや広報紙等を通じて、適切に情報発信してまいりたいと考えております。

上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
3 信頼される事業運営	(1) 健全な事業経営の推進 (P58)	⑤ 人材育成の推進	各種マニュアルの整備や職員研修の実施、外部団体主催研修への参加などにより、職員の能力開発に努めたほか、全国規模の会議において研究発表を行うなど、人材育成を推進しました。	A	外注部分の増加による人員削減にともない、技術レベルの低下ないし人材の枯渇が心配されるが。	長年の経験で培われてきた技術を、着実に次の世代の職員に継承するため、職場研修の実施や技術マニュアルの整備などに取り組んでいるほか、すべての所属におきまして、それぞれ継承が必要な知識・技術について意見交換を行いました。 また、民間事業者などに対する技術指導により、公民一体となった技術継承にも取り組んでおり、今後におきましても、技術レベルが低下することのないよう多面的に取り組むを進めてまいりたいと考えております。
	(2) 効率的な組織づくり (P59)	② 公民連携の推進による効率的な事業の運営	南部下水終末処理場の業務委託内容を拡大したほか、運転管理業務に係る民間事業者に対する技術指導や合同訓練を実施するなど、公民連携の推進による効率的な事業運営に向けた取り組みを進めました。	B	委託する民間事業者とは適度な緊張関係を保ち、癒着などと非難されることのないようお願いいたします。	職員の綱紀粛正および服務規律の確保につきましては、これまでも機会あるごとに周知徹底を図ってきたところですが、今後におきましても、利害関係者との不正の疑いをもたれることのないよう一人ひとりが職員としての自覚を持って行動することについて周知徹底してまいります。 なお、委託業者の業務内容および業務執行状況は、週間、月間、年間で履行監視を実施し、適切な業務の遂行に努めているところであり、今後とも公正な事業運営を行ってまいります。
	(3) 透明性の高い事業運営 (P60)	① 情報提供の充実	企業局だよりの発行やラジオ、市電広告による情報提供を実施したほか、マンホールカードの配付(17,300枚/3年)や水道創設130周年記念事業を実施するなど、情報提供の充実化を図りました。	B	市電を使ったPRや学校の体験学習等も市民への理解を深める努力を感じられる事例であり素晴らしいと感じていた。「企業局だより」も個人的に楽しみにしている。 函館市の上下水道は低料金で信頼性が高いサービスが提供されている。この事実を市民にもっとアピールし、将来へ向かって維持し充実させてゆくための投資について理解を求めべきではないでしょうか。 小学生向け見学会はよい取り組みだと存じます。子供のころ見聞した知識は人間形成に多大な影響があります。将来の函館市民として、あるいは企業局を担う人材として限らない可能性がありますので、継続して取り組んでください。	企業局の各事業はお客さまからの料金や使用料を基礎に運営していることから、お客さまの各事業に対する理解や関心を深めていただくことは不可欠であると認識しております。 今後も引き続き、企業局だより等による料金やコスト、安全性などの情報発信や次世代に対する啓発などに取り組んでまいりたいと考えております。
		② 利用者とのコミュニケーションの促進	小学生向けの上下水道施設見学会の開催や、水道創設130周年記念事業を実施したほか、経営懇話会を開催し意見を求めるなど、利用者とのコミュニケーションを促進し、市民ニーズを事業運営に反映させる取り組みを進めました。	B	赤川高区浄水場のDBO導入に関して、懇話会の議題として取り上げられなかったのはどうしてか。	赤川高区浄水場プラント設備更新整備等事業につきましては、平成30年度第1回 経営懇話会の水道事業の概要説明のなかで、「工事の設計と建設および施設の運転管理を一体的に発注するDBO方式を採用すること、20年間の運転管理委託を含めた総事業費は約88億円であること、公募型プロポーザル方式により事業者を選定すること」など概略をご説明申し上げたところですが、当該事業が令和22年度末までの永きにわたり市民生活に深く関わる事業であることを踏まえ、より詳細なご説明の必要性もあつたと考えていることから、今後は、一層の情報提供の充実に努めてまいります。

上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
4 環境対策の推進	(1) 環境負荷の低減 (P61)	① 省エネルギー対策の推進	浄水場などの施設照明のLED化や、南部下水終末処理場における省エネルギー型設備の導入によりCO2排出量を削減しました。(削減効果264t/3年)	B	取り組まれている施策はすべからず当を得たものと思いますが、最大の環境負荷を生じさせている合流式管路は改善されないのですね。	企業局では、国が定める方針に従い汚濁負荷量が分流式下水道と同程度となる「合流式下水道緊急改善計画」を策定し、国の承認を受けた後、平成17年度から平成25年度において、合流式下水道の緊急改善事業を実施しております。 工事完成後は、分流式下水道と同程度であると国が定める管理基準(雨天時(10mm/h～30mm/h) BOD 40mg/ℓ以下)を維持しております。今後におきましても、適正な維持管理をしながら、公共用水域の水質保全に努めてまいります。
		② 資源の有効活用の推進	小水力発電設備による安定した発電(4,661千kWh/3年)を行ったほか、南部下水終末処理場で発生する消化ガスについては発電やボイラーの燃料として利用し、下水汚泥の乾燥ケーキは一部肥料化するなど、資源の有効活用に向けた取り組みを進めました。	B	世界的にも日本は遅れている分野。資源を活用するのは地域が率先して考えていくべきと常々感じている。そこで重要なのは、未来にとってそれが「負」の要素があってはならないということ。現在行われている事以外にも考えていくべき分野と思うし、伸びしろもあるように思える。	

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

— : 評価なし